

# からこかぎ

第22号 平成30年 5月11日(金)発行

唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会

〒636-0247 奈良県磯城郡田原本町阪手233-1 唐古・鍵考古学ミュージアム内

TEL 090-9257-3688 Email: karakokagijimukyoku@swan.ocn.ne.jp

## 定期総会 会長あいさつ

今西和代

選任いただきました運営委員を代表してご挨拶させていただきます。

今年度も、本総会で決定された活動計画ののっとり、唐古・鍵遺跡の保存と活用に係わる支援事業の一層の充実を図る所存でございます。

とりわけ、遺跡史跡公園が開園となり、さらに唐古・鍵考古学ミュージアムがリニューアルオープンとなります。これからも、一層、文化財保存課、遺跡史跡公園の指定管理者、また遺跡公園ボランティアの方々との連携を密にし、本会事業を実施してまいりたいと考えています。

さて、前年度活動のご報告をいたしました。昨年は、土器の野焼きの見直しをおこないまして、私どものコア事業と位置づけております学校支援での実施の見通しが立ちました。先日、橿原市博物館から土器焼成の指導を求められ、ものづくりのメンバーが博物館の職員の皆さんや橿原高校の生徒さんと一緒に覆い焼きを行い、その成功率の高さに驚かれました。

今年度も引き続き、古代ものづくり体験活動を通じ、「火熾し」さらには「土器づくり」なども見直しを行ってまいりたいと考えております。そのためにも、ものづくりの担当の運営委員を増やし、充実を図りたいと思っています。

また、遺跡史跡公園の開園に伴い、唐古・



鍵遺跡の弥生文化の理解を深めるために、弥生ウォークやさらに検討を予定している新規事業を通じ、学習の機会を持ちたいと思っています。いずれも、今年度の重点事業と位置づけています。

また、昨年末にはバス旅行で吉備の弥生遺跡を訪れました。おかげさまで、ご参加いただいた方々に喜んでいただきました。今年度も、県外の弥生遺跡を訪れ、改めて唐古・鍵遺跡を見直す機会を持ちたいと考えております。

最後に、昨年から重点目標と掲げております「次世代につながるノウハウの継承」の件でございます。私どもの活動も創立して14年を経過しております。私は、何とか、次世代を担う会員の誕生を願っており、重点事業と位置づけ、「活動のノウハウの継承」にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

以上、今年度の活動にあたり、留意したい点を述べさせていただきました。

今後とも、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

(平成30年度定期総会でのあいさつ)

## 「新たな始まりの年に」

田原本町文化財保存課 課長 中尾 澄子

平成30年度に入り、早1か月が過ぎました。

「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」の皆様におかれましては、平成16年4月発足以来14年にわたり町文化財行政を支えてくださり、まずは感謝申し上げます。

さて、本年度は、先月の「唐古・鍵遺跡史跡公園」の開園、来月の「唐古・鍵考古学ミュー

ジウム」のリニューアルオープン等、本町にとって大きな事業が始まる年度です。

田史跡公園の開園により、総合的な学習を含めた新たな展開やミュージアムとの連携を図ることになり、今後、様々な点において新しい手法が求められていきます。

文化財保存課においても、新たなスタッフでの体制となり、何かと不行き届きの点もあるかと思いますが、文化財の保存と活用という両車輪を上手く回して行けるよう努力してまいりたいと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 遺物紹介 大型柱根

### 会報編集グループ

1 今回の遺物紹介は、唐古・鍵遺跡史跡公園の中に新設された遺構情報館に展示されている第93次調査で検出されたPit-1201Wの大型柱根を紹介します。平成15年に実施された第93次調査は、大型建物の全容解明を目的に実施されたもので、既に前々年の第89次調査で大型建物跡が確認されていました。調査範囲は、予想される大型建物跡の長軸にあわせて設定され、長軸30m短軸16mの480㎡でした。発掘を担当された故豆谷先生の発掘報告書を基に、まず大型建物の概要を紹介します。

### 2 大型建物

検出された大型建物は、梁間2間(6m)×桁行(13.2m)の長方形(80㎡)で南西―北東に

軸を持つ高床総柱建物です。建築学の権威の宮本長二郎氏によると、建物は3期の変遷があり、1期は総柱型高床建物、2期は梁間1間型高床建物、3期は平屋建物として異なる形式の建造物を同じ位置に建て替えをおこなっているとのことです。これは、柱の堀形やその深さや柱径の差などに着目し、建築学の視点から検討されたものです。第74次調査で検出された弥生中期初頭の大型建物と異なり、独立棟持柱は確認されていません。遺構は、下層の第3遺構面(弥生前期～中期中葉)から検出されています。柱穴は、23基あり、内訳は東側柱列が10基、棟通り柱列が6基、西側柱列が7基です。そのうち、柱根が残存していたのは展示品を含め18基でいずれもケヤキ材です。展示品の柱根は、西側柱列の北西隅にあたり南東側に斜めに倒されて残存していました。

### 3 大型柱根

展示品は、径83.2m、長さ2.52mの大型ですが、近畿を代表する池上曾根遺跡の棟持柱建物の柱根の最大径が65cmですので、その大きさが先ず注目されます。宮本氏によると、全長252cm、柱根底部までの掘立深さが174cmですから直立すると地上78cmほど出るとされ、総



柱式高床建築としては妥当な高さで評価されています。樹種は、広葉樹のケヤキです。集落内の花粉分析では、草本類の花粉とともに広葉樹の花粉も多く検出され、集落の周囲は広葉樹の二次林に覆われていたと評価されています。集落に近接した場所で太形蛤刃石斧を使用し伐採し、扁平片刃石斧で目処孔をあけ蔓を束ねてロープとし、牽引（陸送）したものと思われる。目処孔には、蔓が残存していました。なお、広葉樹ですので、当時は、弥生前期のような冷涼な環境下でなかったことも分かります。現在の気候条件とさほど変わらなかったと思われる。

抜き取り坑のおよばなかった下層から中期中葉前半の土器が出土し築造の年代が特定されます。一方、柱根上部先端は、炭化しており、西側柱列の Pit-1206W の抜き取り穴上面で炭層が確認されていて、建物は廃絶前後に被熱されたものと思われる。Pit-1206W の炭を含んだ堆積土から中葉後半の土器が出土し廃絶時期が特定されます。なお、柱根の底面から採取した試料の炭素 14 の較正年代は 275 B C と 170 B C の二つの可能性を示しています。

柱根基部の底部の切り口をみると、真ん中が尖っていて平坦ではありません。基部の北西側から柱根底 40 cm に打ち込まれた板材が 3 枚出土しています。抜き取りに伴う土留め用の板材とする意見もありますが、掘り出し面と柱材の空間面を埋め、基盤の役割を果たしていたものと思われる。

#### 4 公園内展示施設

遺跡史跡公園内に大型建物の位置と柱材の太さを示すポールが立ち、傍に大型井戸と L 字形の溝が復元されています。池上曾根遺跡の棟持柱建物（B C 52 年頃築造 135 m<sup>2</sup>）にも同様の遺構があり、かつては、政治・経済・宗教などの中心としてセンター機能を持った大型建物として神殿とする意見がありました。しかし、大型建物周辺から穀殻片やイネ花粉が多く検出されることから貯蔵用倉庫とされています。

復元された第 93 次の井戸と溝は、継続して使用されていて、溝は排水機能を持った区画溝と考えられます。また、大型建物の用途は、縄文的色彩が残存するとの宮本氏の指摘から、近隣住民を含めた作業場や集会所とする見方や、貯蔵用倉庫や大雨時の避難場所とする見方もあります。

## 弥生ウォークのご案内

### 芝ヶ原弥生墳丘墓と周辺遺跡

#### 弥生ウォーク世話人グループ

##### 1 はじめに

今回は、京都府城陽市の弥生墳丘墓を確認します。南山城にあたる城陽市は、京都から 5 里、奈良から 5 里の距離にあります。この地域は、弥生墳丘墓が集中し、芝ヶ原墳丘墓、上大谷 6・7 号墳丘墓、長池墳丘墓があり、いずれも木津川右岸に沿って南北に走る宇治丘陵上に

位置します。宇治丘陵の北端には、淀川から遡上して山城、近江、大和に通じる巨椋池があります。池の南には今回別項で紹介されています久御山町市田斎当坊遺跡（弥生中期の大規模集落）佐山遺跡（後期集落）などがあります。また丘陵南には 37 面以上の多量の銅鏡が出土した椿井大塚古墳（全長 190m 前後）があります。

##### 2 上大谷 6・7 号墳

最初に、古墳中期ですが南山城最大の前方後円墳の「久津川車塚古墳」と次いで「丸塚古墳」を経由して、上大谷 6・7 号墳を確認します。

車塚古墳に近接する丸塚古墳の周溝下より土坑の中に埋納された縄文時代前期後半の深鉢形土器が出土していて、その時期の活動痕跡が確認できます。

上大谷6号墳は車塚古墳の東方丘陵の西端部にあり一辺15mの方形で埋葬施設は組合式木棺(4.6m内面一面に朱を塗布)の直葬で、木棺内から銅鏡(夔鳳鏡 きほうきょう)、鉄製ヤリガンナ・鉄製斧・鉄製手斧が出土し、墳丘東側の溝から庄内式土器(高杯)が出土しています。夔鳳鏡(直径28cm834g)は、庄内期の銅鏡で中国製(後漢)です。7号墳は、6号墳の東17mにあります。埋葬施設は未検出ですが、隣接する場所・墳丘の形態(一辺16m方形)が類似しているため墳丘墓とされています。

なお、15号墳(古墳)からは、庄内期の飛禽文鏡が出土しています。

### 3 芝ヶ原古墳(墳丘墓)

芝ヶ原古墳は、東から西にのびる標高50mの尾根の先端にあり、南側に突出部を持つ前方後方形の墳丘墓です。幅1.2~1.7mの周溝がめぐり、後方部は東西21m南北23mですが前方部は不明です。埋葬施設は、組合式木棺(3m×0.7m一面に朱を塗布)の直葬で、木棺内から銅釧(2)・四獣鏡(1)・ヒスイ勾玉(8)・碧玉製管玉(187)・ガラス製小玉(1264以上)・鉄製ヤリガンナ・鉄製刺突具(8)が副葬され、木棺下から鉄鏃(1)が出土しています。墓壇上面から庄内式土器(二重口縁壺・高杯)が出土しています。4つの獣形をもつ鏡は、中国鏡を模した国産品とされています。

### 4 塚本東遺跡

正道官衙遺跡公園での昼食後、塚本遺跡・塚本東遺跡・下水主遺跡を遠望します。塚本東遺跡からは、北東→南西に伸びる溝が検出され多くの庄内式土器(丹波・丹後地域の搬入土器が2割)が出土し、溝の6m南に堅穴住居(1)が検出され南方向に集落が広がることが予想され

ています。西側に隣接する塚本遺跡からも多様な庄内式土器が出土していて一体遺跡と考えられています。

因みに、弥生時代の遺物は、宇治丘陵段丘面に位置する正道遺跡(石包丁)、芝の原遺跡(土器片)、青山遺跡(石斧・後期土器)から出土し、一方、宇治丘陵西側の木津川が形成した沖積平野面に位置する遺跡(今回遠望する遺跡)からは後期土器が出土しています。

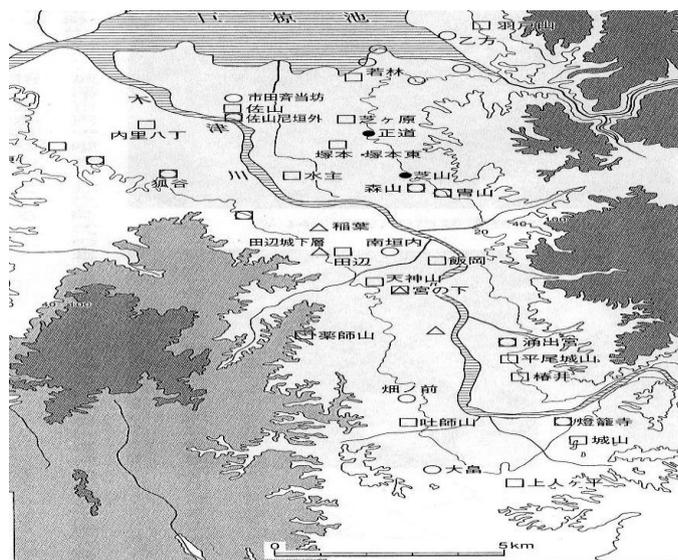
### 5 長池遺跡(墳丘墓)

古墳後期の長池古墳の調査時に、古墳第一主体部の南1mの場所で、地山に接する深さの下層から小型銅鏡(1)、碧玉製管玉(1)、破片(1)、さらに少し離れて庄内式土器(壺・高杯)が出土し、弥生墳丘墓があったとされています。

なお、南山城地域では、未調査ですが加茂町砂原古墳(墳丘墓)があり、山陰地方の特徴を有する庄内式土器(台付長頸壺)が出土しています。

### 6 森山遺跡

最後に、JR奈良線長池駅北側100mの丘陵上にある森山遺跡を訪れます。遺跡からは、縄文後期中葉の堅穴住居(6)、配石遺構(1)、埋石(1)が見つかり、この時期では稀有な集落遺構であることが分かりました。



(南山城地域の弥生遺跡)

また、弥生期の遺構は、後期後葉の堅穴住居(2)と中期後葉の甕棺(1)が検出されています。ここでは、古墳時代前期の方形周溝状遺構とその周囲の堅穴住居(10)が検出されていて、方形周溝状遺構(東西45m南北36m)には、一定間隔の柵列と思われる柱穴があり、豪族居館とされています。弥生期と異なった集落の構造を確認したいと思います。帰りに、五里ごり館(城

陽市歴史民俗資料館)に立ち寄り、芝ヶ原古墳(墳丘墓)の出土品を観ます。

今回は、庄内期の弥生墳丘墓がまとまって存在する地域で、さらに庄内期の銅鏡が集積する地域(木津川東岸5面・西岸4面出土)を訪れます。交通路の結節点に現れる庄内期の地域の動向を確認し、その持つ意味合いを考えてみたいとおもいます。

## 遺跡紹介 市田斉当坊遺跡

### 巨椋池の弥生遺跡

#### 弥生ウォーク世話人グループ

今回は、京都府久世郡久御山町にある市田斉当坊(いちださいとうぼう)遺跡を紹介します。第二京阪・京都南道路の新設計画に伴う調査(H9~13)で発見された遺跡です。従来は、低湿地のため、居住に適さないと考えられていた地域で発見された弥生中期を中心とした大規模集落遺跡です。

遺跡は、丹波から流下する桂川と伊賀山地に源を發し南山城を北流してきた木津川と琵琶湖に水源をもつ宇治川が合流したのち淀川となって大阪湾にそそぐ南山城地域に位置し、旧巨椋池南西畔にあります。今回は、交流という視点で、遺跡を紹介します。まず、遺跡の概要を確認します。



(市田斉当坊遺跡 調査地全景)

### 1 遺跡概要

#### (1) 墓域

最も早い時期の遺構は、中期前半の集落の北

辺の土壌墓で、まもなく南辺でも方形周溝墓が構築されます。遺跡からは、集落の北辺と南辺に大小の48基の方形周溝墓を中心とする墓域が広がり、周溝を連結させて大溝(東西方向)を掘削させています。大溝は、防御の用途よりも墓域を視覚的に確認する機能を有するとされています。墓域には、重複した周溝墓は見られず、隣接して掘削される場合、従前の周溝を利用して掘削されており、長期間管理されていたと推測されています。

#### (2) 住居址

南北の墓域に挟まれた250mの間に堅穴住居跡が96基検出され、中期前葉には堅穴住居が造営され中葉には増加し、その後減少し中期後半から中期末には終焉しています。特に、集落中心部(B調査地からC調査地北半部)では同じ場所で堅穴の再掘削が多く認められます。多いところでは10回程度の建て替えがなされたと推測され、遺跡は長期間継続する山城地域の屈指の拠点集落と評価されています。

なお、市田斉当坊遺跡の南側の佐山遺跡では後期中葉~古墳前期の集落が、さらに南側の佐山尼垣外遺跡では中期の堅穴住居や中期と後期の方形周溝墓が検出されています。

### 2 交流

#### (1) 搬入土器

出土土器は、前期土器は皆無で、後期土器が少量とのことで、中期に限定されています。その中で、日本海沿岸部や紀伊・阿波地域の土器

はみられず、近江と摂津地域の土器が継続して出土したとの報告があります。これは、弥生中期にあつては、近江と摂津地域との直接的交流があり、日本海沿岸をはじめその他の地域とは、近江・摂津を通じた間接的な交流であつたということがいえます。

## (2) 玉作り

遺跡の特徴は、居住当初より玉作りがなされていた点で、丹後半島の奈具岡遺跡と同時期のものです。遺跡からは、碧玉(剥片含む)やサヌカイト製磨製石針・紅簾片岩の石鋸片が出土しています。また、3棟の竪穴住居からは玉つくり関連遺物(玉材および未成品、玉製品)が多く出土し、玉作り工房と思われます。出土遺物は、碧玉製管玉関連遺物がほとんどです。また、碧玉石核は小片で出土するので豊富な供給量ではなかつたと推測されています。

ここで留意したいのは、その入手ルートです。碧玉玉材の原石産地は、蛍光X線分析法によると豊岡市女代南遺跡で出土した碧玉(100個)と同じとされ、石川県小松市菩提・那谷地区産の原石(緑色凝灰岩の露頭の中に良質な碧玉)とされています。これらの剥片出土遺跡(女代南B群)は、鳥取県・島根県・兵庫県・京都府・福井県など日本海側に限られることより、琵琶

湖から宇治川を経て巨椋池に至るルートを利用して日本海側からもたらされたものと考えられています。なお、同産地の碧玉は、唐古・鍵遺跡からも出土しています。

また、石鋸に使用された良質の紅簾片岩は、紀ノ川や淡路島からもたらされたものと考えられます。サヌカイト製打製石鏃や石錐は、出土量が多く、二上山サヌカイトは安定的に供給がなされていたことが分かります。従つて、磨製石針も、縄文期以来の供給ルートからもたらされたと思われます。なお、遺跡からは粘板岩製石包丁が多く出土(95%)し、さらに粘板岩石剣や扁平片刃石斧なども出土しています。粘板岩を産出する丹波帯は山城地域に近く、桂川水系からも河川堆積物もみられるとのことで、直接入手し集落内で製作していたと思われます。

最後に、遺跡からは、縦板の内側を横棧で留めた国内最古級の木組み井戸(放射性炭素暦年代較正值BC385))が検出され、朝鮮半島(忠清南道麻田里遺跡)の同時期の井戸と類似していると報告されています。付近には、先述した玉作り工房とされる竪穴住居(松菊里型)があり、玉作りに朝鮮半島との関連の可能性も推測されています。

## 唐古・鍵遺跡出土品 1,921 点が、 国の重要文化財に指定

国の文化審議会は、3月9日に重要文化財の指定について、唐古・鍵遺跡(平成11年国史跡)の出土品を文部科学大臣に答申しました。

既に、唐古・鍵遺跡の第1次調査(昭和11・12年)の出土品は、昭和42年(1967)に指定されていました。その内訳は、京都大学所有(119点)と奈良県立橿原考古学研究所附属博物館所有(40点)です。今回は、奈良県磯城

郡田原本町が所有している唐古・鍵遺跡の出土品1,921点が、新たに国の重要文化財に指定されました。その内訳は、土器・土製品(803点)・木器・木製品(203点)・石器・石製品(633点)・鑄造関連遺物(134点)・金属製品(19点)・ガラス製品(34点)・骨角牙製品(83点)・繊維製品残欠(7点)・稲穂束残欠(1点)・炭化食物(4点)です。

(編集委員)

井上知章 植田洋高 大森初美 谷口敬子  
福島道昭 万徳順一 宮川真由美